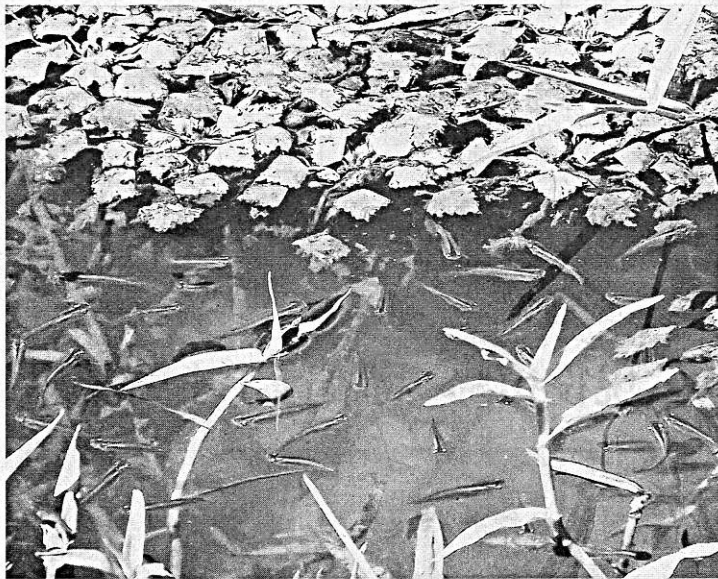


メダカに学ぶ環境保全

敦賀で22、23両日 全国シンポジウム

メダカを通じて環境保全について考える「第17回全国めだかシンポジウム」が22、23両日、初めて敦賀市で開催される。同市の中池見湿地のキタノメダカは種の基準と定められており、22日には貴重な環境に触れる現地見学会が開かれる。湿地で活動するNPO法人ウエットランド中池見は「身近な自然の大切さに関心を持ちきっかけになれば」と参加を呼びかけている。（藤戸健志）

全国の環境団体や個人で、高知県生態系保護協会（当時）の呼びかけで1999年8月に高知市で初めて



中池見湿地に生息するキタノメダカ（敦賀市で）＝笹木進さん提供

開かれて以降、メダカの保護に関する情報交換や学習の場として各地で開催されている。県内では2004年と14年に越前市で開かれた。

ウエットランド中池見などによると、国内のメダカは交雑種を除くと、北日本の日本海側を中心とするキタノメダカと、関東から九州までの南日本に生息するミナミメダカに大別される。

嶺南地方はキタノメダカの南限地。全国的に生息環境が悪化している中、ラムサール条約にも登録された中池見湿地は豊かな生息地となっており、新種が既存種を見分ける基準の「タ

キタノメダカ生息 中池見湿地見学会も

「イブ標本」とされている。シンポジウムに合わせて22日午後1時から、同湿地と池河内湿原で体験型見学会（事前予約制、定員25人、参加費1000円）を開く。

シンポジウム（定員200人、無料）は23日午前9時から、きらめきみなと館で開催する。日本魚類学会長の細谷和海・近畿大名誉教授や、同トラス協会の尾田正二・東大大学院准教授が講演。NPO法人ウエットランド中池見の笹木智恵子理事長らは、1999年に敦賀市内で行ったメダカの分布調査と現在の生息状況を対比した調査結果を報告する。

同NPO事務局の笹木進さん（76）は「昔はどこにでもいたメダカも今は絶滅危惧種。メダカを一つのシンボルとして、このシンポジウムが身近な自然環境に関心を持ちきっかけになれば」と話している。

問い合わせは、笹木進さん（0770・23・5003）。